

生き残りをかけて始まった"まちの魅力発掘"

高まる広報誌の重要性

これからの人口減少社会で"消滅"が予見されている地方。
「地方創生」のために重要なツールが「広報誌」でした。

共有

地方創生とは

東京などの大都市圏への人口集中を是正するため、地方がそれぞれの特徴を活かしながら、魅力あふれるまちのあり方を築くための取り組み。地方に人を呼び込み人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることが主な目的。

魅力

消滅の宣告を受けた各自治体
2014年5月、日本創成会議の報告書が公表され、日本全国に激震が走りました。その内容は全国約1800自治体のうち、2040年までに半数近いの896自治体が消滅する可能性があるというもの。
少子化と人口流出が続くことにより、20〜39歳の女性の人口が、5割以上減る可能性のある自治体が「消滅可能性都市」の宣告を受けました。若い女性が減れば人口は増えず、自治体としての存続が不可能な状態に陥ります。こうした背景がきっかけとなり、地方が持続可能な社会を築いていくために「地方創生」の議論が始まりました。

定住したくなる魅力の発掘
消滅を回避するには、人口の流出を抑えながら人を呼び込む必要があります。そのポイントの1つが、まさに定住したくなる魅力があるかどうかです。「わがまちの魅力は何か」今、全国の自治体でその掘り起こしが行われています。
重要性が増す広報誌の役割
地域の魅力を発掘し、それを磨き上げて価値を高め、周りに伝えていく。これを市民と行政が協働で行うことでその効果が強まります。両者をつなぐコミュニケーションツールとして、広報誌の担う役割は大きく、人口減少社会だからこそ、そのあり方が見直されています。

研磨

※日本創成会議シンクタンク・日本生産性本部が発足させた民間の会議体。日本のエネルギー問題や人口問題などに関する政策提言を行っている。

発掘



ラブレター 特集 広報誌 Love letter



毎月2回、市が発行している行政広報誌。平成17年の合併後、「広報なすしおばら」としてさまざまな話題や情報をお伝えしてきました。広報誌は多くの市民の目に触れる媒体で、まちの身近な情報がつまったもの。だからこそ幅広い世代に読まれ、

親しまれるものでなければなりません。今回号から広報なすしおばらがリニューアルします。皆さんに親しまれる紙面づくりのために必要なことは何か、広報誌のあり方や皆さんの意見から広報なすしおばらのこれからを探ります。



約1週間

約2週間

広報なすしおばらはこうして作られます

企画
施策やまちの話題などから、特集の企画や全体のページ構成を決めます。

取材
特集やイベントなど、まちに関する写真を撮影し、時には市民の皆さんにインタビュー。

編集

取材を元に文章を練り、写真と組み合わせるレイアウトを作成します。

校正

伝わりやすい内容か、誤字脱字はないかなど、入念に記事の内容をチェックします。

印刷

最終的な記事のデータを業者に送り、印刷製本します。

配布

出来上がった広報誌を各自治会の協力を得て、皆さんの家庭に届けます。

